

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

お名前 :有賀 春夫さま / 関口 和也さま / 森 章さま / 吉岡 正弘さま / 加世田 光義さま / 池田 昭さま

【2024年5月17日実施】

2023年度自己点検自己評価(2023年4月1日～2024年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
育 成 人 材 像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3	学校運営にあたり、最も大切にしていることは「滋慶学園グループのミッションと理念」である。これを基に、各校ごと事業計画を作成し、組織目的、運営方針、実行計画を示している。 育成人材像については、各学科ごとに「養成目的」「教育目標」を定めている。カリキュラムについては年2回の教育課程編成委員会を開催し、業界の意見やニーズも踏まえて作成している。 「職業人教育を通じて社会に貢献する」というミッションの元、本校では産学共同研究で新しい商品開発に取り組み、これまでも多くの商品化に成功している。教育を通じて社会貢献に取り組むことで学生にもよい影響を与えている。 2023年度は昨年度に構想した新カリキュラムの実現に向けて準備をしてきた。今後も社会の変化を見据えて新しい学びを創造していきたい。	■ <u>建学の理念</u> 実学教育 人間教育 国際教育 ■ <u>滋慶学園グループのミッション</u> 職業人教育を通じて社会に貢献する ■ <u>教育課程編成委員会</u> 2023年5月17日 11月15日 実施 ■ <u>産学協同研究(2023年度)</u> ・エイジェックグループの農林水産事業に【株式会社エイジェックファーム】との産学協同研究で開発したモロヘイヤとバナナのアスリート向けのジェラートが商品化されました。 ・銀座ミツパチプロジェクトと(株)大鵬とハチミツの入ったクラフトビール「TO NEY」が商品化されました。 ・東京港醸造、東京都北区観光協会との共同開発で、飛鳥山酵母を採取して醸造した日本酒「飛栄」が商品化されました。	3	■「職業人教育を通じて社会に貢献する」を理想だと思います。 ■建学理念である実学教育、人間教育、国際教育を学校組織に浸透させている、また産学共同研究では、学生と、企業との接点を持ち、地域活性に努めている。学生が学んだ知識を智慧に変えられる事が出来れば、尚良いと思います。 ■建学の理念、学園のミッションとビジョンはしっかりと纏められているが、内容が学園としての内容と、学生としての内容が混在している。従って、特に学生にとってのビジョン、行動指針がシンプルなフレースで、箇条書き的にまとまっていると、学生には分かりやすく、頭に残りやすいと考える。また、各学生の自己評価、特にミッションとビジョンを柱とした自分自身の行動に関しての自己評価を年に一度、実施したかどうか？ それによって、建学精神や学園のビジョンとミッションへの理解度と各自の行動が把握でき、それを元に、学園のビジョンとミッションに対するt具体的な改善・工夫を実施できると思う。 ■全国で約2700校ある専門学校の中で、産学連携・情報公開・第三者による評価を受け職業実践専門課程を実践している学校は約1000校のみです。保護者にとっても生徒を送り出す高校にとっても、この努力と文部科学省認定校としての継続は高く評価できることです。また私学にとって重要な建学の理念を、いかに具現化するかが生命線だと思いますが、建学の理念の①実学教育 ②人間教育 ③国際教育 を確実に行い、社会のニーズや業界の動きに対しても速やかに対応する教育がなされています。 ■学生は実学を通して、科学的思考を育み、社会貢献できる人材に育っている。今後も継続してその精神を大切にしてほしい。 ■6次産業まで行うことでさまざまな業種の企業との交流が出来ます。他の業種の方と話すことにより、自分のレベルアップになると思います。
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか					
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか					
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか					
2 学 校 運 営	2-2 運営方針は定められているか	3	毎年見直しをするが、5か年の中長期を見据えて定められている。	■ <u>2023年度運営方針</u> 大学教育では実現できない「東京バイオテクノロジー専門学校にしかできない学び」を創造する。	3.0	■学校スタッフのモチベーションが維持出来ていなければ、良い学生も育たないと思います。職員の皆さんのメンタルフォローも重要です。 ■運営方針では、大学教育では実現できない「東京バイオテクノロジー専門学校にしかできない学び」を創造する。を掲げ、生徒に寄り添って運営が出来ている。 ■各種情報システムの連携はどのようになっているか？ 共通に利用できる項目は、二重作業等にならないように効率的に設計されているか？ ■ 学校運営は中期長期の事業計画・運営方針を最高意思決定機関である法人理事会そして評議委員会で決定承認されて、その後は事業の戦略会議をへて法人運営会議・学校運営会議におろされ、さらに学校全大会議から学科・部署の会議を経てグループ各委員会に伝えられる組織が出来上がっています。組織運営や意思決定の機能と効率は万全の体制と言えますから学校運営に関しても高い評価が出来ます。法人の意思が学校に伝わり全教職員が、同じ方向に向かって進むことが学校教育の基礎だと思います。その基礎を基にして各組織分掌が的確に機能しています。同時に教職員の人事や賃金の処遇についても、的確な制度で運用されていますので、これが学校の活力に繋がっているものと評価できます。 ■勤務に係る重要なことが多くのメンバーによる機関により決定されている。公平性、透明性を確保するうえで今後も継続してほしい。
	2-3 事業計画は定められているか	3	本校の事業計画は、滋慶学園グループの方向性に基づき事務局長を中心に作成し、常務理事の決済を受けて実行に移している。事業計画の項目については右記の通りである。	■ <u>事業計画の構成</u> ①組織目的(普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的) ②運営方針(中期的に組織として目指していく方針) ③実行方針(中期的な組織の運営方針を実現するための単年度の方針) ④定量目標 入学生獲得、教育成果(中途退学防止・資格取得数・就職率)等 ⑤定性目標(組織のあり方等定性的な目標) ⑥実行計画(その方針を実現するための詳細な計画) ⑦組織図(単年度) ⑧職務分掌 ⑨部署ごとの計画及びスケジュール ⑩職員の業績評価システム ⑪意思決定システム ⑫収支予算書(5か年計画) など		
	2-4-1 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	3	組織図、意思決定のルール、会議(日程と目的)を定めており、運営体制は事業計画で定めている。	特記事項なし		
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか			特記事項なし		
	2-5 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3	採用計画、人材育成計画は事業計画で定めている。 昇任・昇給(昇進昇格)に関しては、目標管理制度に基づき滋慶EAST戦略会議にて決定している。	■ <u>給料</u> ・基本給(基礎給＋職階給) ・手当(管理監督者給、役職給、夜間手当、OJTトレーナー手当、調整手当、別居手当) ■ <u>目標管理制度</u> 学校目標2項目とチーム目標3項目及び情意効果の達成度合いによる		
	2-6 意思決定システムは確立されているか	3	拡大運営協議会、滋慶EAST戦略会議、エリア会議を経て、学校の運営会議で意思決定を行い、全体会で職員全体に周知している。	特記事項なし		

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

お名前 :有賀 春夫さま / 関口 和也さま / 森 章さま / 吉岡 正弘さま / 加世田 光義さま / 池田 昭さま

【2024年5月17日実施】

2023年度自己点検自己評価(2023年4月1日～2024年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
	2-7 情報システム化等による業務の 効率化が図られているか	3	滋慶学園のサポート企業にBSCというPC企業があり、独自の管理システムを構築している。 特に学生情報については「入学前～在籍中～卒後」で一貫した情報管理を行っている。学生のような支援(進路決定、就職支援、学費相談等)の際に、その情報を活かし、適切な助言ができる。	■各種情報管理システム ①学籍簿管理 ③学費管理 ⑤各種証明書管理 ⑦就職管理 ⑨学校会計システム ⑪現金精算システム 等 ②成績・出席管理 ④入学希望者及び入学者管理 ⑥求人企業管理 ⑧卒業生管理 ⑩勤怠システム		

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

お名前 :有賀 春夫さま / 関口 和也さま / 森 章さま / 吉岡 正弘さま / 加世田 光義さま / 池田 昭さま

【2024年5月17日実施】

2023年度自己点検自己評価(2023年4月1日～2024年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	各学科、コースごとに養成目的(育成人材像)、教育目標(卒業時に出来るようになっていること)を定めている。学年目標も前期、後期に分けて定めており、担任授業で確認している。	学生便覧に記載	3	■卒業研究発表会での皆さんの説明を聞いていると内容、受答えもしっかりしている事を実感できます。インターンシップおよび産学連携で企業人と接する事でいろんな事を吸収しているだと想像します。 ■学生便覧を作成し、教員、生徒に周知徹底している。 近年の社会人課題のにコミュニケーションについては、力を入れているように感じる。 ■学園に対する、またカリキュラム全般に関する学生の満足度調査を年2回くらい実施したらどうか？ それによって、具体的な改善点が明らかになれば、それに対する対応策も講じることが出来る。退学者や休学者をできるだけ減らすためには、不合格者に対するフォローは大変重要だと思うので、早急に対応策を検討し、実施に移す必要があると考える。 ■建学の理念に沿った教育課程の編成や、産学連携の協力企業のニーズ動向をふまえて、養成目標＝教育目標＝カリキュラムの構成がなされています。PCP教育システム・CPI教育システム・MMPプログラムの体系は他にはない素晴らしい教育実践プランです。 成績評価・単位の認定は学生総てが持っているシラバスにも細かく明記され、学生による授業アンケートも授業内容や評価に反映されて、さらなる改善に繋がっていることは高い評価と言えます。 ■丁寧に評価されている。更に、教科・単元等で生徒に分かりやすいルーブリック表を作成して、ゴールが明確な評価を目指して欲しい。 ■Webの活用は大事と思います。
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか					
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3	年間2度の教育課程編成委員会を開催し、業界関係者からご助言、ご指導いただき教育内容に反映している。また、業界の方を招いての勉強会に加え、業界団体に加盟することで学会等への参加も行っている。	特記事項なし		
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか					
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	3	キャリア教育は、入学時からフロー教育を軸に段階的に実施している。1年次は導入教育(人間力醸成)からスタートし、卒年次はインターンシップや産学連携による卒業研究に移行している。	キャリア教育ロードマップを定めている。軸は、主体性、働きかけ力、実行力、課題発見力、計画力、創造力、傾聴力、発信力、チームワーク力となっている。		
	3-9-4 授業評価を実施しているか	2	各授業終了時に授業アンケートを実施している。講師へのフィードバックが不足しており、課題となっている。	アンケート内容は下記の4項目を5段階で評価し、に自由意見を加えた形式としている。 ①板書は読みやすい ②話は聞き取りやすい ③授業は理解できる(分かりやすい) ④授業は興味がもてる(おもしろい)		
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3	成績評価と単位認定の基準は、学則施行細則はもとより、「教育指導要領」及び「学生便覧」にしっかりと明記し、職員や講師、学生に周知している。また、それらに基づき学生指導・支援にあたっている。2010年の学則より教科課程に単位制・GPAを取り入れている。	授業履修時間も含めて、基準の遵守は徹底している。 卒業・進級判定会議を開催し学校長の承認を経ている。		
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか					
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	2	各コースの取得目標資格は学生便覧に記載してある。 資格取得のサポーは、授業に加え直前対策講座・特別対策講座を実施することでほぼ全ての資格に対して対策ができている。 さらにTeamsを活用し、オンデマンド動画や問題演習を実施している。 不合格者に対するフォローが十分ではなく、課題となっている。	特記事項なし		
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか					
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	学科の育成目標を達成するために、講師がその分野のスペシャリストであることを採用条件のひとつとしている。 講師とは、定期的な講師会議や科目連絡会を通して、授業運営に対する情報の共有化、成功事例の共有、また、学校運営上の方向性、養成したい学生像を共有し、問題・情報の共有、解決につなげている。	産学連携企業のネットワークや各種業界団体、同窓会ネットワークをいかし、交流を図っている。また、その情報から卒業生講師や外部講師を採用している。		
	3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか					
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか					

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

お名前 :有賀 春夫さま / 関口 和也さま / 森 章さま / 吉岡 正弘さま / 加世田 光義さま / 池田 昭さま

【2024年5月17日実施】

2023年度自己点検自己評価(2023年4月1日～2024年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
4 教育成果	4-13 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3	養成コースごとの月別内定数をシミュレーションし、目標値としている。 内定状況は毎月末日に確認し、検証改善を行っている。 就職関連の行事は何回数回行っており、企業説明会をはじめ、企業との連携を図っている。 月末の数字データは学園グループで集約し、これを管理している。学校単体の経年データは学内のPUBIに保管している。	■2024年3月末の実績 就職希望者102名 内定100名(内定率98%) ※内定100%は2024年4月18日に実現	3	■就職内定率100%は素晴らしいです。 就職先で働きやすい環境を作るには、コミュニケーションが重要です。 基本的な事【あいさつ】が出来れば、大丈夫だと思います。 あいさつをする事を意識すれば、その他の事も出来るようになると思います。 ■コース毎に求人进行を明らかにし、リアルタイムで提供している。 就職した者のフォローもされており、安心できる。 ■資格取得に向けた学内模擬試験とか、特別講習的なことを実施することにより、受験する学生達の、試験本番での自信に繋がると推察する。また、口頭試問等があるならば、その模擬試験は相応意義があると考える。 ■大学や専門学校では就職内定率の数字を公表して実績のアピールをしていますが、本来は学生は希望して入学し学んだ知識や経験を活かせる企業に、どれだけ入社したかが実態だと思います。 この説明会でも会場に来られた、中学生親子に就職率100%と説明して反応は弱いのです。むしろいま就職したいと考えている企業に内定しているかが関心ごとなのです。 先般の委員会で紹介された“東京産のビール”の製作は大きな教育の成果として評価すべきだと思います。 ■進路指導は、的確に学生の満足感が醸成されるよう体制が整備されている。今後も生徒のニーズに応えられるよう体制を整備してほしい。
	4-14 資格取得率の向上が図られているか	2	授業内及び授業外での受験対策講座を実施している。合格率100%を目指しているが、	「実験動物1級技術者認定試験」(専門学校初)、「細胞培養士コースⅠ」は、専門的な技術を取得できる資格として、学生のモチベーションを高める資格の一つとなっている。		
	4-15 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	開校35年が経ち卒業生の就職先も多岐に渡っている。現在も多くの就職先と相互の訪問や情報交換、また求人を貰うなど深い関係性を保っている。 また、業界・学会での受賞者や新製品開発に関わるなど卒業生の活躍を把握している。	卒業生の取材や動画撮影を強化し、学生募集、教育に活用している。		
5 学生支援	5-16 就職に関する体制は整備されているか	3	教務とキャリアの情報交換は毎日朝礼後に実施している。学生全体に対する説明会は就職年次の1年前から実施している。企業による学内説明会も実施している。コロナ禍でオンライン面接など有効に使用されるようになった。	11月 就職スタート式(決起大会・業界模擬面接会) 2月・3月 学内説明会以降は個別活動	2.8	■一人一人の学生を見ることが出来ていたと思いました。卒業生の情報収集には、同窓会役員の若返りが必要だと強く感じます。 充実した教育を受け、バイオテクノロジーを社会に生かしているメンバーは、たくさんいると2月の同窓会で感じました。 ■退学者が多く感じるが、個々の事情によるものが多く、学校運営側について、環境などの改善に積極的に取り組んでいる。 ■退学者に関しては、メンタルヘルスの問題が一番大きい者と思うので、メンタルヘルスのサポートプログラムを準備すべき段階に来ていると思う。そのメンタル的に厳しくなった学生について、最初から病院や会社のに行くことは難しいと考えるので、オンラインで自宅で確認できるようなシステムを用意することも重要と考える。 ■学生寮や健康管理体制の中核の“慶生会クリニック”葛西地区に集中しているために、他の学園グループ校とは違う不便さを感じます。 産学連携や企業のニュースをいち早く取り込む努力は評価できます。 退学者の数が気になるのですが、この学校で学びさらに研究を続けるために、東京・順天堂・北里・帝京・横浜市大・青山に進学したり、企業で即戦力として働きの評価は学校としてもっとアプールすべきだと思います。 ■学生は多様化しており、よりきめ細やかな対応が必要となっている。専門職カウンセラーを常勤させる必要があるのでは。
	5-17 退学率の低減が図られているか	3	学生の状況を学生アンケート(CSA)や日常のアプローチを通して、早期の問題発見を行い、全員で情報共有し、対策を立て対応している。学生の抱える固有の問題(精神疾患や発達に関する事案)にも個別に対応し、退学者を抑える取り組みをしている。入学生が多様化する中、担任個々の力技だけでなく、クラスマネジメント、セーフティシステムの強化が必要である。	■2023年度退学者数(率) 総在校生422名 退学者17名(4%)		
	5-18-1 学生相談に関する体制は整備されているか	3	学生相談室を設置し、①精神面②学費③健康面などの相談をいつでも受け入れる体制は既に整備されている。	教職員全員が、カウンセリング研修に参加、学園独自のカウンセリング資格を取得している。		
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	3	在籍管理等については学生サービスセンター、就職支援についてはキャリアセンター中心に行っている。	特記事項なし		
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3	学生の経済的側面の支援は、学生サービスセンターを中心に入学前から事前に学費相談を受けられ、資金のやり繰りするためのアドバイスできている。	特待生制度(実技試験／筆記試験)がある。		
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	2	「慶生会クリニック」や「滋慶トータルサポートセンター」が学生の精神面の健康管理をしており、学生の健康管理を担う組織体制は確立されているが、保健室の衛生管理に課題がある。	学内にて健康診断を実施している。		
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	2	学校単体の学生寮は近隣にはない(葛西地区には多くの学生寮がある)	特記事項なし		
	5-19-4 課外活動に対する支援体制は整備されているか	2	職業教育が主旨である専門学校なのでクラブ活動のようなものはないが、学生募集を行う際の学生スタッフについては外部研修など実施している。	特記事項なし		
	5-20 保護者との連携体制を構築しているか	3	保護者会はオンデマンドで実施し、都合のつかない保護者や遠方の保護者でも参加できるようにしている。課題のある学生の保護者には連絡を密にとっており、必要があれば来校いただき面談を実施している。	特記事項なし		
	5-21-1 卒業生への支援体制はあるか	3	同窓会は組織化されており、会長副会長との情報共有も行っている。卒後の就職支援は個別に対応している。	2024年2月3日 35周年記念の同窓会を実施		
	5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	2	卒後の再教育については、あまり取り組んでいない。資格不合格者が、在校生向けの対策授業に入ることはある。	特記事項なし		
	5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3	大学からの編入学も毎年数名いるため、単位互換等の仕組みは活用されている。長期履修も毎年数名利用している。	特記事項なし		

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

お名前 :有賀 春夫さま / 関口 和也さま / 森 章さま / 吉岡 正弘さま / 加世田 光義さま / 池田 昭さま

【2024年5月17日実施】

2023年度自己点検自己評価(2023年4月1日～2024年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
6 教育環境	6-22 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	2	実習室は実際の現場で使われている設備を揃えているが図書室の室内整備と図書の内容の整備は必要。	特記事項なし	3	■不審者侵入を防ぐために、電子ロックにすることで安全を確保している。
	6-23 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	学外実習・インターンシップ・海外研修を行うことで、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。	■主なインターンシップ先 ・国立がん研究センター研究所 ・国立成育医療センター研究所 ・理化学研究所 ・東京大学理化学研究所 等		■現在は、かなり校舎を目一杯活用されているのが現状と思われるので、将来、新しい校舎の移転等により、教育環境の整備は更に充実できると推察する。
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3	コロナ禍から避難訓練は実施できていないが、毎年避難場所の確認、防災に関する映像での視聴を行っている。また防犯対策としてセキュリティーのかかる扉の設置、実習中や学校生活で起こりうる自己、応急処置法について職員研修実施とマニュアルを作成した。	特記事項なし		■実学学教育・人間教育・国際教育の実践をインターンシップで130社を超える企業や大学との連携は物凄く評価できることです。 特に国立ガンセンター・国立成育医療センター・理化学研究所・東京大学理化学研究所との連携はもっとアピールするべきことです。これが教育成果結びつのです。
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか					■学外研修・インターンシップ・海外堅守は大事にしてほしい。
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3	各高等学校での進路ガイダンスに積極的に参加するとともに、出張授業の依頼に対応、科目における実習授業を担当し、継続的な圏形成の構築を図っている。	特記事項なし	2.8	■18歳人口が全て大学に行ける現状で、当校に入学してもらうのは、本当大変な努力だと思います。学校スタッフ皆さんに感謝します。
	7-25-2 学生募集活動は、適正に行われているか	3	東京都専修学校各種学校協会の定めているルールと学則に則り、募集活動を行っている。また入学案内と募集要項は最新の情報に作成しなおし、受験検討者に送付している。	特記事項なし		■オープンキャンパスの50％は大学も考えている志望者ではあるが、学生獲得のため、Webなどを活用し、自校のアピールをしている。また、学生には卒業後のイメージをしっかり持てるよう発信している。
	7-26-1 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3	学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。 選考日ごとに選考会議を実施し公平に評価している。 (事務局長、教務部長、広報センター長、学生サービスセンター長)	■入学選考 ・AO入試 ・高校推薦入試 ・指定校推薦入試 ・自己推薦入試 ・一般入試		■常に指摘される点であるが、4年生の一般大学との差別化は重要。大きなポイントは、当学園で勉強した学生は、就職先において、即戦力として身につけた能力、技術を活用できることであると考ええる。従って、もちろん対応されていると思うが、当学園で身につける技術、能力を更に高めていくことにより、社会で幅広く貢献が出来ることを、全国の高校や社会に訴えていくことが重要である。
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか					
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3	学納金は適正かつ妥当なものと考えている。 また、HP上には財務の情報公開も行っている。	※詳細はHP		■学生の募集は困難を極める時代に入っています。 18歳人口の減少で大学は全入時代となりつつあり、総ての面で専門学校は大学との競合となっています。2年制の学校が3年制の学校に変わり、3年制の学校が4年制の学校と変わって行く時代です。学びの時間も、学ぶ費用も専門学校と大学の垣根や差は無くなってきています。そんな中で専門学校が選ばれるためには何をしたらいいのかが問われる時代です。 高校も千葉県では公立私立で6割以上の学校が定員を確保できない状況です。都市部の公立高校が定員を獲得できなくなったのが今年の募集でした。私学は公立には出来ない教育を…掲げました。専門学校も大学では学べない教育を…掲げ実践しつ時代です。 そのなかで募集の柱がオープンキャンパスと高校の進路ガイダンスでは太刀打ちできません。進路ガイダンスは業者が予め選定した大学・専門学校を高校に呼び集めますから、いつも呼ばれるとは限らないのです。高校や中学校の文化祭・授業へ卒業生が中心となり出前授業を行ったりする。各種競技会・大会や催し物の会場でアピールする計画を期待します。
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか					■少子化の中で、いかにやる気のある学生に入学してもらうか、SNSによる広報を積極的に考えてもいいのでは。

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

お名前 :有賀 春夫さま / 関口 和也さま / 森 章さま / 吉岡 正弘さま / 加世田 光義さま / 池田 昭さま

【2024年5月17日実施】

2023年度自己点検自己評価(2023年4月1日～2024年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
8 財 務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	事業計画の5か年計画に基づき、中長期的に収支計画を作成し、右記のような中間チェックを、修正を行いながら財務基盤を安定させている。	■事業計画(財務計画・収支予算書)の中間チェック 1. 学園本部によるチェックと理事会・評議員会による承認 2. 四半期ごとの学園本部によるチェック 3. 修正予算の作成:学園本部によるチェックと理事会・評議員会による承認 4. 計算書類の作成と学園本部によるチェック 5. 監事および公認会計士による監査 6. 決算書類、事業報告書の理事会・評議員会による承認 ※内部監査を設置し、第三者視点で厳しくみている。	3	■HPを活用し、閲覧できるようにしている。健全であるから出来ることと感じる。 ■滋慶学園グループ全体で81校の規模。さらに全学生数は約4万人に誇る学園です。また経営内容については人件費の割合が40%とのことから財務体制は盤石といえる基盤を備えています。その会計を公認会計士が監査し、さらに学園の監事による監査も実施されHPでも公開するなど環境が整備されています。教育目標を定め、中長期の予算配分をしながら事業計画がされていますので、よりの確な予算の流れがあることは高く評価されるべきです。 ■適正に処理されており頼もしい
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか					
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3	在校生の推移見込みも5か年計画で作成している。その際、入学目標と退学目標も掲げ、在校生が減少しないよう(授業料収入が減少しないように)計画している。	当初予算→四半期予算実績対比→修正予算→決算という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。		
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか					
	8-30 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3	監査は適切に実施している。	※詳細はHP		
	8-31 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	HP上に情報公開している。	4年制学科は職業実践専門課程に認定されており、その規定にのっとり、学校の内容をHP上に公開している。		
9 法 令 等 の 遵 守	9-32 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3	学園本部の総務センターと各校が連携し、法令や設置基準の遵守に対応している。 また、実務担当者には、法令や設置基準を遵守に対する教育または研修を実施している。	行政への報告や提出書類は、本部の総務センターのチェックを受けている。 また、学園内部の監査も定期的に受けており、適正な学校運営を目指している。	3	■グループ本部で対応をしていることにより、一定の基準で進んでいると感じる。 ■今回の学校関係者評価委員会では、学園の各担当者から、具体的な活動状況等を動画やパワーポイントで大変分かりやすく、説明頂いた。従って、具体的な取組み内容がしっかり理解できる内容で、大変良かったです。有難うございました。 ■さらに個人情報保護を大切にす体制を整備してほしい。
	9-33 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	学園として「個人情報保護基本規程」を定めており、すべての役員・教職員・講師が個人情報に関する法規範を遵守する体制を構築している。 また、学校は大量の個人情報を扱っているため、その管理においては外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての研修を受けている。	参考資料 ■学校法人東京滋慶学園 個人情報保護基本規定 ■物理的安全管理措置及び情報システムからの漏えい等の防止のための技術的安全監視措置について		
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	私立専門学校等評価研究機構の基準に準じて自己点検・自己評価、学校関係者評価委員会を実施しており、結果をホームページ上で公表している。	毎年5月に定められた委員会により、学校全体で取り組んでいる。 参照:自己点検自己評価委員会構成メンバー 学校長 事務局長 教務部長 広報センター長 学生サービスセンター長 キャリアセンター長		
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか					
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか					
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか					
9-35 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	教育情報はホームページを中心に公開している。	※詳細はHP			

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

お名前 :有賀 春夫さま / 関口 和也さま / 森 章さま / 吉岡 正弘さま / 加世田 光義さま / 池田 昭さま

【2024年5月17日実施】

2023年度自己点検自己評価(2023年4月1日～2024年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	産学共同研究で商品開発に取り組んでいる。 学校の設備、免許を活かした社会人向け講座を実施した。 地元の小学校で理科講座を開講し地域貢献に取り組んだ。	■2023年度産学共同研究による商品化 ・ジェラート ・TONEY(クラフトビール) ・飛栄(日本酒) ■社会人講座 ワイン醸造プログラム	2.5	■ボランティア活動の実施も必要です。そこで経験する事で喜びを感じられたら貴重です。 ■産学共同研究により、地域をはじめ、地方とも協力している。また、地域の小学校では、学生が出前授業を支援している。 ■産学協同研究での成果は、素晴らしい成果である。これらは、学生の勉強・研究への更なるモチベーションに繋がると信じる。その他、ワインの醸造、またヘルスケア食品の開発等も進め、当学園のアンテナショップ的なお店で販売することにより、学園に関する高い宣伝効果を期待できないだろうか？そして、当件がTVやネットで紹介されれば、大きな宣伝効果となると考える。自分の夢の実現のためには、普通の4年生大学に行くことばかりでなく、当学園のような優れた専門学校に入学することが近道になることを訴えられる気がする。 ■産学連携授業の成果で、ワインや日本酒(飛栄)そして東京産のビール製造など誇るべきものが多くあります。また近くには羽田空港やJR東京・品川駅もありますので、この成果をもっとPRすべきだと思います。 ■我が校を愛して、地域を愛して、様々な体験ができるよう支援をお願いします。
	10-37 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	2	学生の積極的なボランティア活動への参加はないが、参加希望が出た際は支援していきたいと考えている。 社会人向けのワイン講座では、醸造コースの学生がサポートに入った。こうした活動もボランティア活動と捉えてもいいのではないか。	特記事項なし		
11 国際交流	11-38 国際交流に取り組んでいるか	2	海外研修は2020年度よりコロナの影響で中止となり、2023年度再開の方向で準備を進めたが、世界情勢、渡航費の高騰によって2023年度も中止となった。 代替プログラムとして3か国の各機関とオンラインで中継を繋いだ国内講座を実施した。	特記事項なし	2.3	■海外研修が実施し、学生が経験出来る事は重要だと思います。 ■コロナや、国際情勢の悪化により、見合わせになっているが、Webを活用し、一定の満足は果たせているように感じる。 ■確かに、近年は、コロナの蔓延や、ウクライナの戦争継続、更に各国の気候変動の問題等、難しい状況が続いている。従って、例えば、日本に於いて、留学生の多い大学と連携し、アドホックで交流会、または一部授業の相互参加等を開催出来ないだろうか？ ■コロナ感染も治まりつつあります。多くの学科で海外との交流でさらなる高見を探してくれることを期待しています。 ■世界に目を向ける学生の育成を望みます。 ■海外からの講師を招いてもいいと考えます。